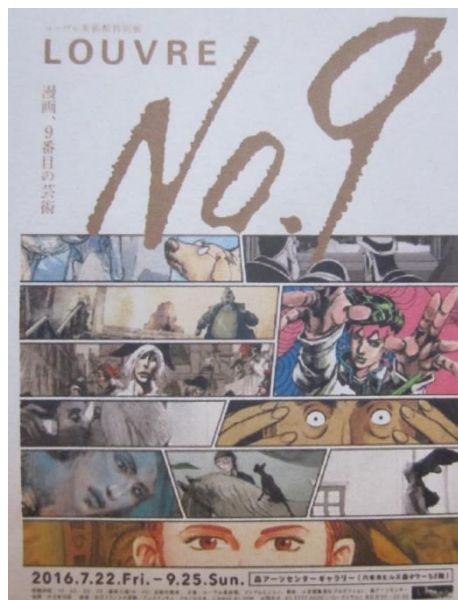


ルーヴル美術館特別展「ルーヴル No. 9 ～漫画、9番目の芸術～」

森アートセンターギャラリー 2016. 07. 22～09. 25 巡回 大阪・福岡・名古屋



現在の「ルーヴル美術館」の建物は、12世紀末に「城塞」として作られたもので、その後フランス王家の華やかな「宮殿」に、そして人民の皇帝を名乗る「ナポレオン」によって公共の「美術館」へとドラマチックに変遷してきた。

この美術館は、1793年の開館以来200年以上の長い歴史をもち、収蔵品は「約38万点」、絵画だけでも「7500点以上」という圧倒的なコレクションを所蔵している。

毎年、世界各国から世界一の850万人もの人が訪れ、所蔵品は「古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術」「絵画」「イスラム美術」「素描・版画」「古代エジプト美術」「彫刻」「工芸」「古代オリエント美術」の8部面に分けて展示されている。

最近、フランスでは「漫画」は、「建築」「彫刻」「映画」「メディア芸術」などに続く“第9の芸術”とされ、評論や研究の対象になる大衆的な作品がある。

一方で、「漫画」は絵画のような複雑で技巧に富んだ作品も多く、子どもから大人まで楽しむことができるために発展し、“9番目の芸術”として世界最高峰の美術の殿堂「ルーヴル美術館」が「漫画」に扉を開いたとされている。

< 展覧会の構成と見どころ >



松本大洋 <<ルーヴルの猫>>

作家ごとに漫画を読み進めたり、絵画のように眺めたりできるほか、空間全体をアートとして体験することが出来るコーナーなど多彩な展示を楽しめる。

日本人アーティストは、「荒木飛呂彦」「谷口ジロー」「松本大洋」「五十嵐大介」「坂本真一」「寺田克也」「ヤマザキマリ」の作品が展覧されている。

第1章 The Great LOUVRE

～偉大なる美術館～

第2章 Welcome to a Parallel World ～ようこそ、異次元の世界へ～

第3章 Beyond Time and Space

～時空を超えて～